

令和6年3月定例会

市長説明要旨

山鹿市

本定例会において、令和6年度の市政運営に関する私の所信を申し上げます。

■経済と社会の動向

まずはじめに、多くの尊い命が奪われ、大規模な家屋への損害など甚大な被害が発生した能登半島地震から2か月を経過しようとしておりますが、現在も1万2千人を超える方が避難所の生活を余儀なくされています。

犠牲となられた方のご冥福をお祈りするとともに、1日も早い復旧・復興を願っております。山鹿市におきましても、募金箱の設置や被災地への職員の派遣を実施しています。また、市内の小・中学校での募金活動や民間団体における支援活動など、みなさまの温かい支援の輪が広がっております。被災地に寄り添った息の長い支援に努めてまいります。

さて、日本の経済について、政府は「景気は、このところ一部に足踏みもみられるが、緩やかに回復している」としています。

しかしながら、長期間にわたる物価上昇により、市民生活への影響が生じています。このような中、国においては物価高により厳しい状況にある生活者・事業者への支援を行うとともに、賃上げの流れを地

方・中堅・中小企業にも波及させ、賃上げ機運の維持・拡大を図るとしています。

一方、熊本県においては、世界有数の半導体企業である TSMC の工場が開所され、第 2 工場の建設も正式に決定したところです。県全体において経済への大きな波及効果が期待されています。

■市政運営方針

それでは、「令和 6 年度における市政運営の基本的な方針」について申し上げます。

日本全体で人口減少が顕著となっており、本市においても予想を上回るスピードで人口が減少しております。

こうした状況を打破するために、令和 5 年度を戦略的な人口減少対策元年と位置付け、①人口減少のスピードを抑制すること②人口減少社会にあっても持続可能な社会を構築すること、この 2 方向からのアプローチで市民や企業、市外在住者から「選ばれる山鹿」を目指し、様々な事業に取り組んでいます。

私の市政運営は 4 年目を迎え、任期満了の年を迎えます。

令和 6 年度については、この「選ばれる山鹿」の実現のため更なる磨き上げを図るとともに新たな事業にもチャレンジしていきます。

また、令和7年1月には、新山鹿市としてスタートし20周年の節目を迎えますが、これまでの成長を振り返り、その成長を糧に更なる山鹿市の飛躍に繋げてまいります。

ところで、私の選挙公約の一つに、「社会の安定、発展の基礎は健康であり、健康都市宣言を起草し、疾病の予防と健診、医療の充実を図ること」を掲げております。この公約実現のためスマートウエルネスティー首長研究会に加入し、全国の先進事例を研究する中で、健康かつ生きがいを持ち、安心安全で豊かな生活を営むための施策の重要性を認識したところです。

合併20周年を迎えるにあたり、改めて市民一人ひとりが健康づくりに取り組むことへの機運の醸成を図りたいと考えております。

豊かな自然に囲まれ、歴史と文化に彩られた郷土(ふるさと)に感謝し、赤ちゃんから高齢者まで誰もが生涯を通じて心と身体(からだ)の健やかさを保ち、地域とのつながりを大切にしながら、健康寿命を延ばし、幸せに暮らし続けることは私たちの願いです。

住む「ひと」が元気であるならば、「まち」も元気になります。「まち」の元気を維持するためには、そこに暮らす一人ひとりがライフステージに応じた健康づくりに取り組むことが大切です。

そこで、誰もが住みたい、住み続けたいと思える「健幸なまち山鹿」

を目指してここに「健幸都市」を宣言します。

この宣言の実現を目指し、健全な食生活、健診（検診）の受診、質の良い睡眠・休養、そして適度な運動など、市民の誰もが健康づくりに取り組むことができるよう、心身ともに豊かに暮らせる健幸都市づくりを進めてまいります。

本市が目指す健幸都市は、健康で幸せに暮らすという願いを込めて、「健康」の「健」に「幸せ」と書いて「健幸」としております。

■ 予算編成の考え方

次に「予算編成方針の考え方」について申し上げます。

令和6年度は、人口減少対策（「人口減少のスピード抑制」と「人口減少社会にあっても持続可能な社会の構築」）の取組を戦略的に展開するための①結婚・子育て応援プロジェクト、②しごと・人材応援プロジェクト、③移住・定住応援プロジェクトに基づく各種取組を展開するとともに、+（プラス）1（ワン）として健幸づくり応援プロジェクトを推進してまいります。この3つの応援プロジェクト+（プラス）1（ワン）を通じて、市民や企業、市外在住者に「選ばれる山鹿」の実現を図ります。

そのほか、近年多発している災害に対する防災・減災のための対策

の強化、学校施設をはじめとする公共施設の長寿命化・老朽化対策に、引き続き取り組んでいきます。

さらに、限られた経営資源を有効に活用する観点から、公共施設等の保有量の適正化に向けた遊休資産の処分、市営住宅、公園及び学校の包括管理といった民間活力の導入、業務の省力化・効率化に資するデジタル技術の活用に積極的に取り組んでいきます。このような考えのもとに編成しました、令和6年度の一般会計予算総額は、過去最大となります341億円となり、これに6特別会計と4企業会計を合わせますと、純計では552億2,413万5千円となっております。

■令和6年度に重点的に取り組む施策

ただ今の予算編成方針に基づき、令和6年度においては、先ほど申し上げました4つの応援プロジェクトを推進してまいります。

それでは、プロジェクトごとに重点的に取り組む施策の概要について申し上げます。

まず、1つ目は「結婚・子育て応援プロジェクト」であります。

① 結婚支援事業

結婚支援員の確保や活動強化を図るため、結婚支援に興味がある

方の掘り起こしや研修会を実施します。

また、結婚希望者を対象に、社交スキルの習得や出会いの場づくりを目的としたセミナー付きイベントを開催することで結婚を後押しするとともに、結婚に際しての経済的な負担の軽減を目的とした支援策により、結婚後の市内居住の推進、若年層の定住を図ります。

② 保育所等のICT化事業

公立の保育所や認定こども園では、人員不足の中、デジタル化が進んでいないため、依然として保育士の負担は大きく、保育所と保護者の双方向の連絡方法も利便性に欠けている状況です。

そこで、登降園管理や保護者連絡、帳票管理などの保育業務支援システムを導入します。これにより保育士・保護者双方の利便性向上と負担軽減及び業務の効率化を図ります。

また、不妊治療費助成やこども医療費の無償化、育児用品購入助成、さらに小学校入学時のランドセル贈呈などの市独自の子育て応援施策に、引き続きしっかりと取り組んでまいります。

次に「しごと・人材応援プロジェクト」であります。

① 工業団地整備事業

TSMCの進出に伴い、周辺自治体においても半導体関連企業の進出や設備投資が活発になっています。半導体産業を含めた更なる企業誘致による地域経済の発展と定住の促進を図るため、新たな工業団地の整備に取り組みます。

先日、工業団地の候補地を公表したところですが、今後、地元住民や地権者に対して丁寧な説明を行ったうえで、整備に必要な事前調査や法的な手続き、関係機関との協議・調整等を進めていきます。

② インバウンド誘客促進事業

TSMC の進出や海外直行便の就航効果により、県内のインバウンド需要が拡大していることを受け、インバウンドの受入に向けた環境整備等に取り組む観光事業者に対して市独自の支援を新たにスタートします。その他、多言語サイトや海外の旅行会社を通じた情報発信など、効果的なプロモーションを実施することで、観光地としての魅力や認知度の向上を図ります。

③やまが和栗日本一プロジェクト

西日本一の生産量を誇る本市の和栗ですが、「山鹿の栗」としての認知度不足や生産者の高齢化など課題も多く抱えています。

生産者はもちろん、和栗に携わるすべての方が儲かる仕組みを構築し、日本一栗で稼ぐことができる山鹿を目指すため、栗農家に対する支援や、生産者、加工業者、関係団体等が一体となって「やまが和栗」の振興を図る協議会の設立などに取り組めます。

次に、「移住・定住応援プロジェクト」です。

①住宅用地整備促進事業

市内からの人口流出抑制と、市外からの移住定住を促進するため、開発可能性のある住宅用地の候補地を数か所に絞り込み、民間事業者が開発するために必要な情報を調査・整理し、本市において実施可能なインフラ整備等の開発計画に着手します。併せて、民間事業者への補助制度の創設についても検討を行います。

②移住定住支援事業

本市の空き家バンクは、登録物件に対し、利用者(希望者)数が大きく上回っています。

今後、相続登記の義務化を踏まえ、相談員(地域おこし協力隊)を増員し、空き家の有効活用と空き家バンクへの登録を促進します。

また、市内への円滑な移住を後押しするため、積極的な情報発信と、きめ細やかな移住定住相談、住まいへの助成等により、特に子育て世帯等の移住定住を強化してまいります。

最後に、「健幸づくりプロジェクト」です。

先ほど宣言しました「健幸都市宣言」については、多くの市民の方が健康に関心を持ち幸せを感じる事が重要です。

特に健康への関心が薄い方や、関心はあっても運動などの行動に移せていない方を含めて、健康づくりのきっかけを提供し、心身ともに幸せを感じながら暮らすことができる「健幸なまち山鹿」を目指します。

4月のやまが温泉祭で改めて宣言を周知するとともに、10月には健幸フェスティバルを開催いたします。また、健幸都市のスタートアップとして、温泉を活用した産後リフレッシュ、シニアのための健康貯筋教室、温泉を活用したボディメイク教室、小学生を対象とした体力づくり教室を新たに開催するなど、ライフステージに応じた健康づくりを積極的に支援します。

■その他の重要事業

これらの重点施策のほかに、次の「重要事業」にも取り組んでまいります。

①地域公共交通事業(あいのりタクシー配車システム導入)

あいのりタクシーの利便性向上と、運行の効率化、配車業務の省力化を図るため、配車システムを導入します。

また、新たにコールセンターを設置し、4エリアの受付の一本化と併せてウェブ受付もスタートさせ、持続可能で利便性の高い地域公共交通の構築を図ります。

②福祉会館整備事業

熊本県から取得した山鹿保健所跡地については、福祉団体の活動の場、高齢者福祉、介護予防事業の拠点となる、福祉会館の建設に向け、令和5年度に外部委員から成る新福祉会館建設推進委員会の協議により作成された案をもとに、山鹿市福祉会館建設基本構想を策定しました。

令和6年度においては、用地取得、既存建物の解体、基本設計・実施設計等の業務委託を行い、令和9年度の供用開始に向け、新施設の建設を進めてまいります。

③常備消防施設整備事業

近年は大規模な災害が頻発しており、少子化・高齢化に伴う人口減少が進む中、自然災害などの突発的な事案発生時に市民の生命や財産を守るためには、地域の消防力の維持・強化が必要です。そこで、各署に

配備された消防・救急車両のうち、鹿北分署の災害対応特殊消防ポンプ自動車と山鹿消防署の高規格救急自動車を更新して、消防力の維持・強化を図ります。

■結びに

以上、令和6年度の市政運営や予算編成にあたっての、私の基本的な考え方と施策の概要について申し上げます。

さて、昨年6月に売却しました旧千田小学校につきましては、国のデジタル田園都市国家構想交付金を活用し、新しい働き方を応援するイノベーション拠点「YAMAGABASE（やまがベース）」として4月にオープンする予定です。山鹿市に居ながら都市圏と同等の仕事が出来るサテライトオフィスの機能なども備えており、「地方からの日本再興」という大きなビジョンのもと、廃校の新たな利活用モデルになるのではないかと考えております。

また、本市を拠点とするオムロンハンドボール部（ピンディーズ）が、今年9月に開幕予定の新たなプロリーグに参加されます。新たなチーム名は、3月2日に山鹿市総合体育館で開催される日本ハンドボールリーグ第13戦の試合後に発表されるとのことです。チーム名は変わりますが、引き続き本市を拠点に、「更に進化し続けるオムロン」として飛躍されることを期待しています。市としましても「ハ

ンドボールのまち」というブランドを更に市内外に発信し、引き続き
応援してまいります。

市民みんなで熱い声援を送りましょう。

最後に、私が市長に就任してから様々な新たな事業に取り組んで
まいりました。今後も職員一丸となり、失敗を恐れないチャレンジ精
神を持って、山鹿市の伝統・文化、市民の気質等を礎に、活力あふれ
る“ふるさと山鹿”を築くとともに、市民の夢と希望をかたちにする
「山鹿創生」の理念のもと、市民、企業、市外在住者から「選ばれる
山鹿」の実現を目指してまいります。

本日から24日間にわたりご審議いただきます議案は、予算15件、条
例13件、財産の貸付1件、市道路線の認定1件、人事案件2件、その他
5件の計37件及び報告2件でございます。これらの諸議案の内容につ
きましては、担当職員が説明いたしますので、よろしくご審議賜りますようお
願い申し上げ、市政運営に関する、私の説明といたします。